

【緑地を楽しむ本】

『ペレのあたらしいふく』

エルサ・ベスコフ

福音館書店



今年はひつじ年。年賀はがきの切手部分のひつじは、12年前マフラーを編み始めて、今年は出来上がって首に巻いているようです。

「ペレは、こひつじを 1 ぴき もっていました。そのこひつじを、ペレは じぶんでせわし、じぶんだけのものにしていました。」ペレがこひつじを抱き上げ、こちらを見ている絵からはじまりますが、そのペレの誇らしげなこと！

上着が小さくなってきたペレは、そのこひつじの毛を刈って、おばあちゃんにすいてもらって、それ

からもう一人のおばあちゃんに糸にしてもらって・・・いろいろな人に自分ではできない加工をお願いしてすてきな洋服ができてあがります。誰かに何かをお願いするたびに、ペレは言われたお手伝いをキチンとこなしていきます。そして、にちようび。できあがった洋服を着て、こひつじに言います、「あたらしいふくをありがとう！」

淡々としたおはなしなのですが、自分でできることはやって、対価としてちゃんと労働をして、そして生きものに感謝する。生きていく基本的なことが描かれているのだな、とあらためて思いました。

(遠藤)